



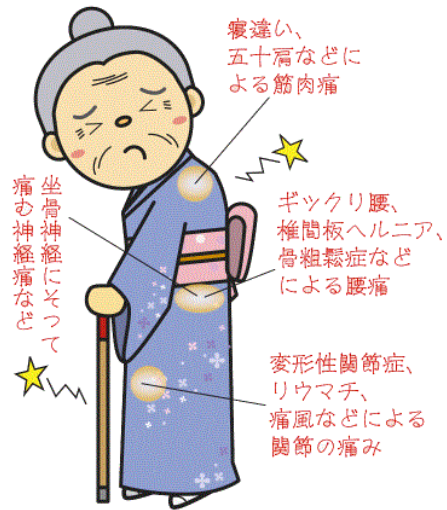
疎経活血湯 (そけいかっけつとう)

【処方コンセプト】腰痛、神経痛に一刺すような痛み、冷え・湿気・夜間に悪化する人。

疎経活血湯は処方名にもあるように、経絡の流れを改善し、血の働きを活発にするという処方。血行を良くして痛みや痺れなどを改善する痺証のファーストチョイスである。外部から病の原因（風邪(ふうじゃ)・湿邪・寒邪など）が侵入することによって経絡が塞がり痛む場合や、瘀血や血虚で痛む場合に用いられる。

◆この処方は四物湯に桃仁・牛膝(ごしつ)を加え、血の巡りを改善する作用を強化したもの。さらに祛風湿薬（風邪や湿邪を追い払う薬）と利水薬（水の偏在を治す薬）が配合される特徴をもつ。

◆“痛み”に用い、その範囲は腰痛、関節痛、神経痛、筋肉痛と多岐にわたる。とくに腰より下に発した痛みを目標に用いられる。



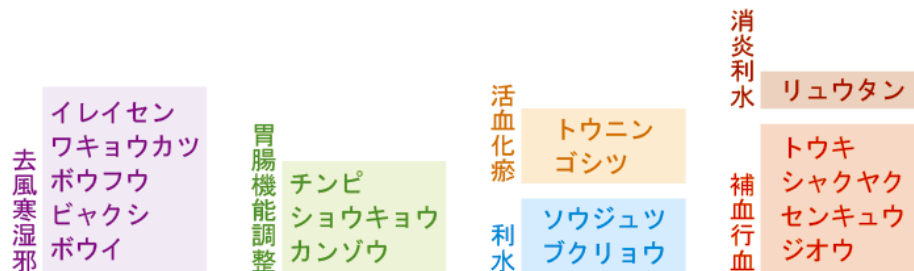
◆漢方では“痛み”は風邪・湿邪・寒邪などが侵入して経絡が塞がれ、気血の巡りが滞ることで引き起こされると考えられ、それを“痺証(ひししょう)”と呼んでいる。痺証には風痺(ふうひ)・湿痺(しっぴ)・寒痺(かんぴ)などがある。

◆風痺(風邪が原因の痛み)は遊走性の痛み。湿痺(湿邪が原因の痛み)は重だるい固定痛。寒痺(寒邪が原因の痛み)は冷えると悪化し、痛みが強いという特徴がある。疎経活血湯は風に加えて寒湿の病邪をも除去して、血行を促進し、血液の栄養を補うことから、言わば痺証のオールマイティ薬。

◆薬味が多いので切れ味がマイルドなように思われがちだが、実際に使ってみると、痛みに関しては即効性もあり本治(根治療法)はおろか、標治(対症療法)にも充分かなっている。

【処方構成】17味

主薬で祛風湿の防風(ボウフウ)・防己(ボウイ)・和羌活(ワキョウカツ)・威霊仙(イレイセン)・白芷(ビャクシ)が筋肉や関節の痺れ・痛みを去り、蒼朮(ソウジュツ)・茯苓(ブクリョウ)の利水作用で浮腫を除き、活血化瘀の桃仁(トウニン)・牛膝(ゴシツ)で血行を促進し、祛風湿薬の鎮痛作用を助ける。清熱化湿の竜胆(リュウタン)は消炎・鎮痛に働き、補血行血の四物湯で神経・筋肉を滋養して機能の回復を助け、血行を促進する。また、芍薬・甘草(カンゾウ)が筋肉の痙攣を緩めて、陳皮(チンピ)・生姜(ショウキョウ)・甘草で消化力を強めて他薬の吸収をよくする。



	解 表	利 水	清 熱	驅 瘀 血	理 氣	補 氣	散 寒	そ の 配 合
--	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	---------

																		他 生 薬 数								
	麻 黄	桂 皮	和 羌 活	防 風	白 芷	生 姜	威 靈 仙	防 己	蒼 朮	白 朮	茯 苓	竜 胆	当 歸	芍 薬	川 芎	地 黄	牛 膝		桃 仁	陳 皮	半 夏	厚 朴	大 棗	甘 草	附 子	杏 仁
疎経活血湯			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○			17
五積散	○	○				○	乾			○	○	○		○	○	○			○	○	香 附 子	○	○			18
麻杏薏甘湯	○							薏 苡 仁															○	○		4
桂枝加朮附湯		○				○			○					○									○	○	○	7
防己黄耆湯						○		○		○													○	○		6
続命湯	○	○				○						石 膏	○		○								人 参	○	○	9

処方名	類方鑑別
疎経活血湯	痛みのファーストチョイス。刺すような痛み、冷え・湿気・夜間に悪化する場合。
五積散	さすると痛みが軽くなり、腰やお腹周りを中心に冷えて痛む場合。
麻杏薏甘湯	外界の冷えからくる急性の痛み。
桂枝加朮附湯	慢性的に冷えが進行して、むくみがとれないような痛み。
続命湯	慢性的に熱感のある萎縮性の痛み。